



TSAG及びWTSA地域間準備会合報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

1. はじめに

2021年1月8日にWTSA地域間準備会合(Interregional Meeting for Preparation of WTSA-20:IRM)が、11日～18日まで、国際電気通信連合電気通信標準化部門(ITU-T)の電気通信標準化諮問委員会(Telecommunication Standardization Advisory Group:TSAG)がオンラインで開催された。

今回のTSAG会合はITU-Tの2017年～2020年研究会期における7回目の会合であり、55か国から297名が出席し、我が国からは、主管庁である総務省とともに、日立、KDDI、富士通、三菱電機、NEC、NTT、NICT、日本ITU協会から計25名がリモート参加し、対応した。

2. WTSA地域間準備会合

世界電気通信標準課総会(World Telecommunication Standardization Assembly:WTSA)は、ITU-Tの総会であり、4年に1回開催される。WTSA-20は、当初2020年11月にインド・ハイデラバードで開催される予定であったが、COVID-19の影響によって、2020年6月のITU理事会バーチャルコンサルテーションにおいて2021年2月23日～3月5日に延期することに合意した。しかし、状況が改善しないことから、2020年11月に開催されたITU理事会バーチャルコンサルテーション第2回において、2022年3月1日～9日に延期することに合意、その後、理事国及び加盟国の過半数の賛成を経て、延期が決定した。2021年後半から2022年にかけてITUの大きな会議が連続していることを考慮して、期間は当初の予定の9日間から7日間に短縮されている。インドが引き続きホストすることを表明し、開催場所は当初の予定から変わらずインド・ハイデラバードとなっている。

併せて、TSB(Telecommunication Standardization Bureau:ITU-T事務局)より以下の説明があった。

- ・WTSA-20のブランドネームは今後の混乱を避けるため、WTSA-20のままとする。
- ・次のWTSAは元のサイクルに戻り、2024年開催とする。
- ・今研究会期は2022年3月まで延長し、SGマネージメントチームは継続する。

地域間準備会合は、WTSA-20に向けて、各地域における準備状況について事前に共有することを目的として開催される会合であり、2020年9月に引き続き2回目である。議長は、TSAG議長であるBruce Gracie氏(カナダ)が務めた。

会合では地域電気通信機関であるAPT(アジア太平洋地域)、ATU(アフリカ地域)、CEPT(欧州地域)、CITEL(米州地域)、Arab League(アラブ地域)、RCC(ロシア地域)それぞれから準備状況の紹介があった。APTからはAPT WTSA-20準備会合議長である前田洋一氏(総務省参与)がプレゼンを行った。

併せて、TSAGの各ラポータグループ(RG)議長から、前回TSAG会合以降の議論の進捗について紹介があった。RG-ResReviewの報告に関連して、各地域からの決議提案の準備状況及び各地域のフォーカスポイントを取りまとめて、随時更新できるようにすることがTSBから提案され、歓迎された。次回以降の会合については、前回に引き続き宗教上の理由のためアラブ地域から金曜日の開催を避けるよう提案があり、いずれも木曜日の2021年10月21日及び2022年1月6日に開催することとなった(いずれも未確定)。

3. 各ラポータグループ(RG)における議論

3.1 標準化戦略ラポータグループ

(RG-StdsStrat; Standards Strategy)

共同ラポータ内で取りまとめ役を順番に交替して運営を行っており、今会合のRG議長はArnaud Taddei氏(米国、Broadcom)が務めた。我が国からは、新規作業項目提案時に関連するSDGsと、ひも付ける詳細な手順を取りまとめた文書を提出し、各SGにリエゾン文書として発出することを提案した。参加者から手続きが複雑になることに対するコスト増の指摘があったほか、政策的な内容であることからITU理事会で議論することが適当であるとの意見があった。今会合では決定せず、引き続き議論することとなった。

各SGからの回答が取りまとめられた標準化ホットトピックスについては今後レビューを継続し、1つの可能性のあるシナリオを、コンセンサスを得て策定するための背景資料として分析が行われることとなった。

今回のTSAG会合までに最大4回(2021年2月25日、4月

22日、6月24日、8月26日を予定)のラポータ会合を開催することに合意し、Stephan Hayes氏(米国、エリクソン)が議長を担う。

今回のTSAG会合で、Arnaud Taddei氏は退職となることから、TSAGプレナリ会合においてTSB局長からCertificateが授与された。

3.2 作業方法ラポータグループ

(RG-WM ; Working Methods)

ITU-Tにおける様々な作業手順やルールを規定するAシリーズ勧告の維持管理の役割を持ち、Steve Trowbridge氏(米国、ノキア)が議長を務める。

WTSA-20の延期に伴い、勧告Aシリーズの承認をTSAGで目指すこととなったことから、各地域におけるAシリーズ勧告の修正提案に関する議論の紹介が行われた。各地域から提案された勧告A.1、A.7、A.8の修正について、提案内容の確認、不明点の質疑、懸念事項の確認等が行われた。今会合での合意事項はなかった。

カナダから、新規作業項目提案時にギャップ分析した内容を記載することができるテンプレートを勧告A.1に追加する提案が行われた。欧米各国から他標準化機関との重複を避けることができる点から支持されたのに対して、中国、ロシア、中東諸国から、既に行われているギャップ分析が機能している、またはギャップ分析を必須にすべきではないという点から反対があり、継続議論となった。

中間会合を2021年3月及び6月並びに10月または11月に開催することが議長から提案され、詳細はマネージメントチームで決定することとなった。

3.3 標準化協調強化ラポータグループ

(RG-SC ; Strengthening Cooperation/Collaboration)

ラポータはGlenn Parsons氏(カナダ、エリクソン)。他の標準化機関との協調の在り方や強化策についての検討を行っている。

IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAGが協働して進めているStandardization Programme Coordination Group (SPCG)での活動報告がTSBからなされ、本活動の内容をどのようにして各SGにフィードバックするのか、ICTの国際標準化を進めるJTC1との関係はどうなっているのか、特定分野で関連する他の標準化機関(SDO)に対するアウトリーチはどうするのかといった質問があった。TSBからは、JTC1を含む他のSDOも重要と認識していると回答があり、

まずは、SPCGがより多くのフィードバックを得るために、本報告書を全SGに対してリエゾン文書として発出することとなった。

JTC1リエゾンオフィサーの三宅滋氏(日立)から、2020年11月に開催されたJTC1総会の報告が紹介され、オープンソースやデジタルツインに関するグループが解散したこと等が報告されたほか、新たにAG18(語彙)の設置に関する情報提供があった。AG18の設置に関しては、ITUを含めた他のSDOに影響がある内容であるとして、SCVにリエゾン文書を発出することとなった。

IETFからのIETF/IRTF/ITU-Tのコラボレーションに関するリエゾンレポートの報告があり、IETFで何が議論されているかを周知するため、全SGにリエゾン文書として発出することになった。

カナダからoneM2MへのITU-T A.25 (ITU-Tと他団体間でのテキスト取り込みのための基本手順)の適用に関して説明があり、TSBからはSG20に対して、リエゾン文書を発出することが提案されたが、時間切れのため、今後の電子会議で議論を継続することになった。

次回のTSAG会合までに、中間会合を3回(2021年4月8日、7月22日、9月9日)開催する予定としている。

3.4 作業計画・体制ラポータグループ

(RG-WP ; Work Programme and structure)

ラポータはReiner Liebler氏(ドイツ、連邦ネットワーク規制庁)。すべてのSGの活動報告を検証し、SGが提案する課題構成の変更案については是認(endorse)するとともに、次会期のSG構成の見直し案を検討する役割を持っている。

WTSA-20の再延期が決定したことを受けて、本RGにおいて、各SGから提出された課題構成案のレビューが行われ、プレナリで是認された。今回の課題構成の変更に伴うラポータ等の任命は、必要に応じて各SG会合で行うことが確認されたほか、今会期の要職者は2022年3月のWTSAまで継続となっていることから、WP議長等の新規任命については、2021年以降継続不可能な場合を除き、次研究会期(WTSA以降)に行うことが確認された。

SG再編の原則及びSG構成に関する各国の提案まとめが報告され、韓国が以前のSG再編提案(C144)を取り下げることを表明したほか、ロシア・アラブ首長国連邦・クウェート・イラン・米国・カナダ等の各国からWTSA-20でのSG再編は求めない意向が示され、議長からTSAG報告に、現在のSG構成を維持することに幅広い支持があった旨を記



載することが報告された。

併せて、これまでのSG再編に関する議論と今後の再編議論の方向性を含み置き、WTSA-24に向けて、課題構成の最適配分を中心に分析検討を進めるためのCorrespondence Groupの設置が提案され、Philip Rushton氏（英国）が議長に選出された。

今回のTSAG会合で、Reiner Liebler氏は退職となることから、TSAGプレナリ会合においてTSB局長から感謝状が授与、後任のラポータは、日本の永沼美保氏（NEC）が務めることとなった。

3.5 決議レビューラポータグループ

（RG-ResReview ; Review of WTSA Resolutions）

WTSA-20に向けて、各地域から提案されたWTSA決議をレビューし、事前に提案の共通点を見いだす作業を行っており、Vladimir Minkin氏（ロシア）が議長を務める。

各地域からの提案及びそれぞれの決議に対する各地域のフォーカルポイントをマッピングし、まとめた文書に基づ

き、レビューを行った。

決議1、18、22、45については、作業方法にかかわる決議であることからRG-WMにおいて議論することとなった。

決議35“ITU-T TSAG及びSG議長の任命及び任期”は同内容の決議がPP-18で策定されたため、全地域から削除提案が出されていることを確認した。

議長から各地域のフォーカルポイントから1名をコーディネーターとして選出し、WTSA-20前に調整を行うことを提案した。いくつかの参加者からは、コーディネーターを任命することはTSAGの役割ではなく、コーディネーターの任務は非現実的であり、実施不可能だとの指摘が挙がった。

次回TSAG会合までに1～2回の会合を予定している。

4. 今後のTSAG会合の予定

今回のTSAG会合は2021年10月25日～29日までの5日間の日程で、オンラインで開催される予定となっており、今回と同様、前週の10月21日には地域間準備会合が開催される予定となっている。

国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



船舶局局名録
2020年版



海岸局局名録
2019年版

海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2020年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp

